

話ししてまずし、実質的に「かわ」の冠を取るといふことも必要なのかもしれない。以上でございませう。

○安部 隆委員長 13番、高橋孝夫委員。

○13番 高橋孝夫委員 整理をするために最後に伺いたいと思ひますが、都市再生整備事業には、この整備計画には生活関連整備事業が含まれているわけだ。仮に、今、市長がおっしゃられるように、今後議論が進んで、観光交流センター整備は断念、あるいは花公園は不必要と決断した場合は、既に着工している生活関連事業はどうなるんですか。素朴な疑問で恐縮ですけども、教えていただきたいのが一つと、この議論、なかなか進まないという状況を考えると、しかもかなりぎりぎりの線で何となくこの12月定例会の結論が出そうな雰囲気を見ると、私はちょっと忍びない。この際、提案を取り下げて、新年になってから計画全体についての考え方を説明するということから出発するのが一番早い道のりではないかとも考えますけれども、いかがでしょうか。率直に考え方をお聞かせをいただきたいと。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。時間もないです。

○内谷重治市長 まず、生活環境整備については、基幹事業であるかわと道の駅とか、着工してからじゃないと着手できません。したがって、今のところ生活環境整備については、予定はしておるんですが、着工してないという状況でございませう。

それから、今回全体を取り下げて、来年からもう一度ということですが、これについては、やはりことし認定をいただいておりますので、そういう事情を国のほうにお話しして相談していかないと、何とも今の段階ではちょっと言えないのかなと。国のほうに依頼して見て、じゃあ一旦取り下げて、もう一回仕切り直しということをしていただけるかどうか、その辺を

お願いしていかないと、それから返事を、答弁をさせていただければと、少し時間をいただきたいと思ひます。以上です。

○13番 高橋孝夫委員 以上で終わります。ありがとうございました。

## 小関秀一委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位8番、議席番号5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 おはようございませう。

大分雪が降ってまいりまして、市民生活、特に除雪等、これから心配な季節になるわけですが、議会では昨日来、予算にかかわる、特に各委員、予算委員の方々から質疑されております、第1点目の私の通告しております都市再生整備事業にかかわる諸課題についてお尋ねを申し上げます。大分質問された方が多いわけですので、ダブらないようになというふうに心がけるわけですが、まず第1点目であります。

当然今予算に織り込まれております測量設計の委託料1,260万円、観光交流センターの基本調査業務委託料の480万円、これについては3月来、さまざまな形で議論をしてきたところがあります。まず、市長にお尋ね申し上げます。3回ほど観光振興計画策定委員会をされたというふうなことで、議事録なり、私も参加をしながら、いろんな長井市のこれからのあり方について学んだりもしてきたつもりでありますけども、この点については、答申はいつまで、そしてどう観光振興計画が生かされるのかなという、ずっと昨年来からのこの道の駅にかかわる、まちなか整備も含めてでありますけども、観光を振興していくのだというふうな部分も含めて説明なさっているわけですが、観光振興計画はまだ策定になってないというふうなことが私はど

うも今もってひっかかっているわけです。つまりご意見をいただいて、その積み上げをして、ある程度の見通しの中で、しかもさらには第5次総合計画の中でもきちんと10年計画の中でもうたいながらというふうなことが一番私は市民からも理解の得られるスタートラインだべなというふうに、かつての質問の中でもしたことあるわけですが、その点について、市長、どういうふうにお考えですか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 観光振興計画についてのご質問だと思いますが……。

(「生かし方」の声あり)

○内谷重治市長 生かし方。観光交流拠点施設に対してですか。

まず、観光交流拠点施設については、いわゆる市民のさまざまな各層からの長年にわたるご要望、かわの駅、それから、今、菜なポートなどを運営しておりますが、平成19年から21年までの経済再生戦略会議の中で出された道の駅の構想、そういったものに基づいて、まちなかに観光交流客もふやそうという多目的で、今回、都市再生整備計画で取り組んだところでございます。したがって、観光振興計画というものは10年間の計画でありまして、それは施設をどういうふうに張りつけるかというよりも、むしろ長井の資源をどういうふうにして生かしながら、特に人づくり、また、この間の一般質問でもありましたけれども、観光プラットフォームづくり的なものから観光の振興を図っていくという計画でありますので、施設計画と観光振興計画が必ずしもイコールというものではないと、私はそのように考えております。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 今、市長から答弁いただいたわけですが、その10年間の計画と施設はリンクというか、必ずしもリンクしないというふうなことで回答としてはいいんだかつし、再度

ちょっと確認したいです。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ただいま観光振興計画を策定中でありますので、ただ、その中での議論の中で、もちろん拠点施設としてのあり方などいろいろ触れられております。しかし、観光振興計画ができてからじゃないとそういったものの施設の整備ができないという考え方ではなく私は考えております。ただ、観光振興計画、最終的に出て、それから方向性が決まるんでしょうけども、それも今やっているものに対してどうのこうのということではなくて、あくまでも今後10年間の観光によっていかに経済波及効果を高めていくかという考え方に基づく計画だと、そういうふう理解しておりますので、一つ一つリンクするどうのこうのということではないと私は考えております。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 非常に残念な答えだなと私は感じる。やっぱり10年間の計画が基本になって施設の整備とか維持管理とか、ポイントをどこに絞って、財源も含めて、人の張りつけも含め、また、今、いい提案がこの間のシンポジウムでもあった、プラットフォームで人づくりをしながらという長期スパンで長井の観光なり雇用も含めてしていかれるといいなだというふうなことが、今、策定中の段階なので、まさにかわと道の駅を含めて、とりあえずは単品で本予算に出されてるようなことが本当に長井の将来にとってありなのかという部分は、今現時点では非常に不明瞭だなというふうに私は思います。

昨日来、あと高橋孝夫委員も質問されたわけですが、今ある施設を整理しながらという部分でまだ腑に落ちない部分ありますので、通告しております直売所と観光拠点施設について、農林課長から、一般質問でも来年度、現時点に設置されている菜なポートの問題は回答いただいたわけですが、恐らく新年度予算でその計画

なり予算は、地場産等を含めて計画が出てくるのだらうなというふうには思いますが、拠点施設について、直売所のあり方等は議論なり、計画策定がさまざま始まっている部分というのがありますか。生産者団体等も含めて。

○安部 隆委員長 那須宗一農林課長。

○那須宗一農林課長 観光拠点施設との関係、直売所の関係というご質問でございますけれども、菜なポートの方向性につきましては、昨日来の市長の答弁でもございましたとおり、かわと道の駅に直売施設という形で設備を整備するという基本的な考えを持っているというふうに私ども考えております。現在の菜なポートの施設につきましては、まちなかにありまして、市民の利用も非常に多いというようなこともございますので、そのあり方については今後の検討課題かなというふうに思っております。

また、運営というふうなことも含めてでございますが、必ずしも観光拠点施設という部分だけではございませんけれども、生産者組織の皆さん、今、多くいらっしゃるわけですが、その方々の中には直売所を運営することについて検討を進め始めたいという意向もお聞きしているところでございます。どのような形で今後の直売所の運営にかかわっていただけるのか、これから検討をしなければならぬ課題かなというふうに考えております。まだ本当に検討が始まった時点でございますので、具体的に申し上げられるような状況ではございません。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 私、農家の方々の意見などを今現時点でお聞きする範囲では、せっかく定着した町の方々に買ってもらえようになった菜なポートの現在の位置から、国道を越えて、それこそ歩いて自転車で買っていただけるのかというふうな不安の声のほうが非常に多く聞かれます。それは誘客なり、さまざまな手法なりPRなりをするというふうなことと、一つは、

道の駅となれば市外のお客様に対してというふうな部分でのこともあろうかというふうに思いますが、その辺については、今、課長からは検討というふうなことでありますけれども、24年度の菜なポートの運営協議会の大きな事業というか、検討をするというふうな部分での基本目標があったわけですけど、その辺はまだ十分になってないということによろしいんですか。

○安部 隆委員長 那須宗一農林課長。

○那須宗一農林課長 お答えを申し上げます。

生産者の組織でございます菜なポート運営協議会の中で、その部分について十分検討されてきたかどうかについては十分承知はしておりませんが、今月の末に平成25年度の菜なポートの運営のあり方について協議する会を開催したいというふうな地場産センターの意向があるようでございますので、その中で改めて25年度の運営の方針と、あと来年度以降、このかわと道の駅の構想にかかわってどのようにしていくかという部分についても検討がなされていくのでないかなというふうに考えております。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 ちなみに、農林課長からお尋ねしますが、今の菜なポートの借地、そして建物もお借りしているわけですが、契約期間についてはどのようになっていますか。

○安部 隆委員長 那須宗一農林課長。

○那須宗一農林課長 契約期間について、ちょっと私、手持ちの資料はございませんけれども、来年度についても契約はできるものだというふうな前提で話し合いが進んでいるというふうに承知しております。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 単年度更新の契約ということで理解してよろしいわけですか。

○安部 隆委員長 那須宗一農林課長。

○那須宗一農林課長 私は契約の中身については承知しておりません。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 市長、もし今の菜なポートの借地、建物の借り上げについての契約期間について、ご存じであったら補足、市長からもしありましたらよろしく。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 駐車場と建物込みの契約で、1年更新だというふうに記憶しております。1年で更新ということでございます。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 当然直売所については、現在もですが、地場産業センターの今後の事業計画等について大きな見直しなり計画変更なり、あと、いわゆる一般公益財団に移行する中での事業展開というふうに一般質問でも中井課長にお尋ねをしたところでしたが、私は、外にも売る、あと市民にもさまざまな物産や市内の生産物を売っていくというふうなPR、物販を目指していただける地場産については大いに期待をするわけですが、実際に例えば地元の野菜や果樹やということもですが、地元産の例えば米も、どのように市内、せめて市内の米は市内の方々には最低食べてもらうべというふうな事業がまずあってしかるべきかなど。あんまりとれねえものピンポイントで、開発と称してするののも一つの手法だと思えますけども、一部さまざまな取り組みをしていた人からの米の販売も私は承知しておりますけれども、まず市民が市内の米ぐらいはみんなで食うべというふうなことをPRしたり販売したりしていくことからスタートしないと、それこそない物ねだりで、いろんな観光施設、観光事業を見ていくと、新しい商品が開発されて、観光にもいい目玉商品が出たというふうな話は聞くわけですが、なかなか物販までは伸びてないというのが今までの観光も商工の歴史もあつたのかなというふうに見えるので、その辺、これから地場産のさまざまな事業展開について、商工振興課長から一言お願いし

たいです。

○安部 隆委員長 竹田利弘市街地活性化主幹。

○竹田利弘市街地活性化主幹 それでは、ご質問のあつた地場産業振興センターの今後の事業についてご説明申し上げます。

先日の一般質問でも答弁いたしました、一般財団法人移行後も現在取り組んでいる事業を継続して展開させ、事業内容に大きな変更はないと地場産業振興センターの理事会で決定されております。したがって、地場産品に係るいわゆる物産の事業につきましては、これまでどおりの地場産業の健全な育成と発展のための重要な事業として実施してまいります、機会を捉え、地場産品の販売拡大を図っていくことも大変重要な役割でございますので、所期の目的達成のため、いわゆる一般財団の移行を契機として、ご提案のあつた米の販売等も含めて、今後どういう体制で取り組んでいくか検討してまいりたいと思っております。以上です。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 さまざまな課題が多いと思いますので、今ある資源なり産品なりをまずは数多く販売をしたりPRをしたりするところから、私はぜひ再度計画を練っていただいて、事業展開をお願いしたいなというふうに思っております。

地場産も直売所の今後のあり方も、全くこれからの議論なり計画づくりだというふうなことがわかりました。それぞれ生産者の方なりも先が見えなくて不安だというふうなことで、検討する材料もなかなか難しいのかなというふうに思いますが、市長にお尋ねしますが、直売所については、道の駅も含めて、今の菜なポートも含めて、1カ所にするのか両方併設にするのかもまだ全く考えがないということよろしいんですか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

今の菜なポートの運営協議会の役員の方と話している内容は、全体的な合意ではないんですが、やはり先ほどから小関秀一委員がおっしゃっているように、現在の菜なポートは随分町の人に親しまれているということから、地場産としては、新しいかわと道の駅ができましたら、そちらに売り場のほうを移したいというふうに考えておりますが、その際もどういう形で運営協議会の方たちにかかわっていただくかということは今から決めていくと、その際に菜なポートももし運営協議会で運営したいということであれば、それはそれでよろしいんじゃないかなというふうに今のところは話しております。ですから、1カ所になるか2カ所になるか、それはこれからのやはり生産者の団体の皆様との協議によって決まるべきことではないのかなと考えております。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 なかなか実際に物をつくっている立場からいえば、非常に不安な状況にあるなということで、私、議会というか議員の立場でもご迷惑をおかけしているということで、早急にこの問題については落ちつかせたいもんだと、そして安心して物をつくってもらえるような状況が望ましいなというふうに今も感じます。

かわと道の駅の部分については、昨日来の質疑の中でも、川のコンセプトについては河川公園を断念したことによって変わってきたんじゃないかというふうなやりとりが、先ほどの高橋孝夫委員の質疑の中でもあったわけですが、私も非常に将来の長井市の人口減なり、これからの財務の状況なり、公共施設のあり方なりを総合的に考えると、無理した施設の建設については非常に心配しておる立場です。特に古い公共施設等については、どうするかというのは行財政改革推進委員会からも答申をいただいているわけですが、40年以上築年数を経た施設が16施

設あると、この施設の建てかえなり更新というのがもう喫緊の課題になっているという長井市の状況を考えますと、施設の統廃合なり安全を早急に確保するという意見書の大きなポイントで指摘をされておるわけです、既に。特に市役所の庁舎を見れば、本庁舎、第二庁舎、文化会館、特に第二庁舎については、もう市長も実は行財政推進委員会の中でも24年度中に方向性を出すというふうに3月15日におっしゃっております。これも大変前向きな市長の考えだなというふうに私は議事録で見せていただいたわけですが、それについての24年度中の庁内での動き、検討状況について、どう進んでおられるのかも含めてですが、つまり私は、そういう近々の公共施設に対する考え方と、例えば観光施設なり、さまざまな直売所等の雇用なり産業振興も含めて考えるとすれば、合築の検討もなされるべきでないかなというふうに思っ質問させていただきましたので、よろしく願い申し上げます。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず、行財政改革推進委員会の答申については、我妻委員の一般質問の中でもお答えさせていただきましたけれども、私どものほうで非常に問題だということで、行革推進委員会の皆様に、なお現場も見ていただいて、いろいろご指導いただくということが目的でしたものでございます。それについては第5次総合計画の中で計画的に更新していくと、長寿命化を図っていくということであります。

今回の都市再生整備計画につきましては、それとはまた違った、いわゆる長井市はもう既に雇用の場がなくて、働くところを何とか創出してほしい、あるいは経済を活性化してほしいという要望に応じて行うべきものというふうに今回の事業の位置づけをしております。したがって、まず、先ほど言いました公共施設、公の施設と今回のいわゆる活性化の施設ということをそもそもは別に考えておりました。ですか

ら、そういう公共施設を長寿命化しなきゃいけないんじゃないかということはもちろんですが、だからといって地域を活性化するためのそういった事業は後回しということでもないというふうに考えてます。

そこで、小関委員からありました、そういった施設を合築したらどうかということですが、これについてはやっぱり相当十分念入りの準備が必要だと思っております。まず、市の庁舎等々については、現在のところ全く予定をしておりません。というのは、庁舎を建てる際、その事業費の3割程度の積み立てを義務づけられております。したがって、今ある積み立てというのは基本的に財政調整基金でありますから、それをそちらに回すということは適正じゃないというふうに考えております。したがって、どのぐらいの規模の庁舎をつくるかというところをある程度決めて、それに従って、基づいて、積み立てをしなきゃいけないということが第一であります。

それと、今回のそういう地域を活性化させるためのいろんな諸事業については、やっぱりできるだけ早くしてほしいと、なおかつ中心市街地の中で街路事業がもう待たないで進んでいるわけでありまして、これらを有機的につなげていって、中心市街地を活性化していくことがまた一方の視点から必要なんじゃないかといういろんなさまざまな方面からの声もございまして、この事業を考えているところでございませぬ。

したがって、合築ということについては、決して否定するものではないんですが、ちょっと時間的に相当検討しなきゃいけないということで、今回の事業で合築ということについては残念ながら難しいというふうに考えております。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 今回の事業では難しいという市長の見解は当然わかります。都市再生整

備事業そのものの議論が、説明があったのは昨年の11月ごろからペーパーでやって、本格的に議論したのは3月からというふうなことで、全く説明が見えなくて、6月、9月と質疑の中でようやくその事業の概要が少しずつ見えてきた部分と、やりとりをしながらさらに不安のところが見えてきたというふうなところと、両方ありましたので、市庁舎と合築してどうのこうのなんていう段階では私も決してないというふうな承知するわけですが、だからこそ、例えば先ほどお話しした観光振興計画なり第5次総合計画なりの中できちんと検討し、計画さ張りつけながら、まちづくりなり市の方針を立てていかなないと、例えばじゃあまだこういう施設欲しくなった、必要だというふうな、投資規模が全く見えないなというふうな私は思うんです。それについては先ほどできればシンプルなのか、コンパクトシティというまちづくりの理念に基づいて、あんまりお金、予算や、これもこれもというふうな施設の建設は必要ないべというふうな私は思うし、議会の意見交換会、また市長の市民との意見交換会の中でもそういう声を私も聞かせていただいたなというふうに思っています。どういう意味での意見だったかはきちんと分析してからでないといけないわけですが、その辺も含めて時期尚早だと、私は、長井市が抱えてるこれから10年間ぐらいのさまざまな問題を整理した上でないと、市民の不安というのはなお一層増すのでないかなというふうに思うんですが、それについて市長の再度の見解をいただきたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

先ほど観光振興計画の中でも話しましたけれども、かわの駅というのは前の長井ダムの周辺環境整備計画、これは平成10年ぐらいからつくってきた計画の中に提言としてありました。それから、道の駅というのは、もうそもそも第4

次総合計画、平成16年度の計画の中にそういった施設を誘致するなりつくる方向でうたわれております。さらには平成19年からの経済再生戦略会議の中でも道の駅ということをやられていたわけですので、そういった意味では、やっぱり市民の声というのはいろいろありますので、じゃあ住民投票で決めるのかということの部分でもないと思っておりますので、そういった意味では、今、経済が停滞して、雇用の場がどんどん減って、なおかつまちなかはシャッター街と、そういったところを何とか打破すべく、街路事業を本町が認定を受け、そして今度は駅前通りもまた認定を受けようということで、県事業でありますけれども、努力されてると。それに対して市も何かをしなきゃいけないのではないかということからの事業でありますので、それはいろんな考え方がありますから、これは私が言っていることが正しいというふうに言っているわけではないです。ただ、市としてなすなきゃいけない事業の一つがやっぱりそういった活性化のための事業であろうということをお願いしているわけですので、そのために観光振興計画をより体系的につくって、いろんな側面から観光による経済波及効果を目指そうというのが観光振興計画でありまして、一つ一つの事業を規定するために観光振興計画を立てているのではないと私は理解しているわけです。

できれば委員おっしゃるように全部つながって、総合計画も街路事業も都市再生整備計画も26年から全部スタートできるように今まで準備がずっとできてればいいわけですが、残念ながら私どもの任期も4年ごとにありますし、総合計画は10年計画でありますし、そういったところについてはなかなかうまくいかにのさんでいけない部分もあるんだと思います。だからといって、じゃあ今の状況の、それをまず我慢して、まずはじっくりするという考え方もあるんです

が、やっぱりやれるところからやっていく、それも必要なのではないのかなと、私はそのように思っているところでございます。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 先ほど高橋委員からの質問の中に、市長の回答で、シンプルにというふうなことである中では、例えば直売所とか物産館とかは最低限の施設と、今まで説明を受けてきた加工所なり、いわゆる農家レストランなり、どういう規模になるのかどうかというのは、それもこれからだということであろうというふうに今までは私らは説明を受けてきたわけですが、さっきの市長の答弁からいえば、余計なものについては、それも見直すと、あと先ごろの花公園についても、11月の協議会の説明では花公園も見直しをするというふうに断言をして、私たちに説明をいただきました。ところが昨日のやりとりの中でも、花公園については、市長のいわゆるマニフェストとして進めるのでなくて、行政としてなすべきこととして花公園も前向きにするんだと、平成25年度、単独予算をつけながらというふうな回答があったわけですが、これについては全く私は耳を疑うような説明の誤差が生じたなというふうに思います。つまりお聞きをすればするほど見えなくなってくる部分が物すごくあるので、今回の都市再生整備の全体像がまたぐらついたというふうに改めて思ったところですが、花公園も、きょうは花公園の通告してないわけですが、全体像で非常にかかわりますので、再度、今まで発言をされてこられた市長のいわゆる総括というか、花公園に対する意見をもう一回確認をさせていただきたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

今回の都市再生整備事業、全体事業の中のいわゆる基幹事業というのは二つということは何回も今までもお話ししてきました。一つがかわ

と道の駅、これは河川公園も含めて、あともう一つが花公園と、この二つでございました。

まず、かわと道の駅については、この間、3月から12月まで何回か議論して、いろいろ概要はわかったと思います。ただ、その中で、やっぱり何度も委員の中からいただいた内容がどういう中身なんだと、どういう施設で、どんな機能があるんだということが何度もありました。今度、花公園の位置づけというのは、まちなかにぎわいを山形鉄道のお客さんを中心につくっていかうと、そのために花公園的なものが必要なのではないかということで上げたわけですね。私のマニフェストとかどうのこうのとは別に、そういった機能のものが必要だと、しかし、それをもう議論するまでもないわけですよ。皆さん、なかなか理解できないですから。私は、花公園でなくてもいいと、ただ、まちなかにぎわいづくりのものがもう一つ機能として必要なわけなものですから、そのためにたたき台として花公園の可能性のデータを出して、あとほかのいろんな、何ていうか、にぎわいづくりのものなども一応たたき台みたいなものをつくってもらって、それはあくまでも市単でね、そして議論してもらったほうが、これはだめだとか、違うほうがいいのか、そういう議論になるのではないかと思って申し上げたのでありまして、そこについては、きのうお話しして、どうもこれは認めていただけないのかなと思いましたが、そここのところはこれは白紙に戻すことも、まだ全然予算も計上しているわけではありませぬので、それは必要ないというような議員の皆様判断であれば、それは全く白紙にして、じゃあ逆にまちなかにぎわいをつくるために何をしたらいいかということで皆さんから意見をいただいて、それから考えるという手もあるかと思えます。ただし、かわと道の駅みたいな道路で来るルート、それからもう一つは鉄道のルート、まちなかがにぎわいづくりをするための

二つの基幹事業というのは今回の都市再生整備事業の柱なものですから、その二つの機能を抜きにしてはこの事業が成り立たないという仕組みでありますので、そこを議論を深めるために、そういったものがあつたほうがいいんじゃないかなというふうに私がその場で考えたものでございまして、それは白紙にすることももちろんやぶさかではありませんし、必要でないということであれば、それは予算は上げるつもりはしておりません。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 ちょっと歯切れが悪くて、よっくどわかんなくなりました。つまりさっきの川のコンセプトの部分で、川の部分は取って、シンプルに道の駅というふうなことでどうだかというふうに高橋委員からのやりとりの中でも、それは変えることも可能だというふうなこともおっしゃっているわけですが、花公園についても白紙に戻してもいいような、ほだげんども、今、国さ申請した部分の基幹事業なので、それはさんにえというふうなことだったり、私には判断がさんにえのよな。市長は何度も19億円の予算、上限予算の中でするんだというふうなことをおっしゃっているわけですが、さっきもやりとりあつたように、じゃあこの事業でなくて、単独で農家レストランとか、加工所とか、花公園のほうさは角野記念館を建てるとかというふうなことが最初に私んださ、いろんなことが説明あつたわけです。補助事業としてされる部分の上限はわかつたけれども、じゃあどこまで膨らむんだというようなことも全く見えない中で、一つ一つ点として結論を出していくというのは、私は長期展望に立ってないと、あくまでも。やっぱりさっき最初にやりとりをさせていただいた、長井市のさまざまな課題を整理整頓してからでないと、予算づけなり財務計画なり、おれ立たねえべなと思えます。

「あやめR e P o」で市民さ出しやつた財政



計画、10年、20年だっけ、財政計画の中で、都市再生整備にかかわる公債費の負担は約五、六千万円ですよというふうに説明あったわけだけでも、それだけで長井市の公債費は済まね。プラス、プラス、プラスというふうに市民の負担は重なりながら、当然年間何ぼの公債費比率で抑えんなだというふうな説明も当局もしておりますから、際限なく借金をふやすなんていうことは、私らは認められないし、市民も納得はしねわけだけでも、そういう全体像の中で観光も産業振興も語っていがねと、市民の不安はぬぐえさんにえなべなというふうに思います。

最後の教育施設周辺の環境整備について、教育長にお尋ねをします。

今まで市長からも、あと教育長からも、道の駅が長井小学校とめぐみ幼稚園付近に建設がされるとすればどうですかというやりとりの中で、さまざま不安はありますが、何とかしていきたいというふうなことがざっくりいえば回答あったと思います。市長からは、学校側に説明した際、理解も得ているというふうな答えもいただいておりますが、本当に不安というのはないんだか。教育長、その辺。

○安部 隆委員長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 今回の件については、教育施設、長井小学校とめぐみ幼稚園の施設が隣接するということでのさまざまな教育環境面でのマイナス面があるのでないかという議員のご指摘だというふうに思います。特に心配されるのが、小学生の場合の通学の安全、それから騒音、あと不審者の侵入という、そういう大きく3点に分けての環境面での悪影響という、マイナス面があるのでないかということでもあります。

通学路については、現在、長井小学校の子供さんたちは、ちょうど予定されている部分の道路については、登校の際には利用していません。そういうことで、登校面での下校時の心配はないということですので理解しております。

なお、不審者については、現在、来年度、長井小学校だけでなく、いろんな防犯上の理由から、防犯カメラについて、予算についてお願いをしているところでございます。

あと、そのほかは、騒音についても前回答えましたので、そのようなことで大きな影響はないのではないかとというふうに考えてございます。

あと幼稚園についても、特に隣接するわけがありますので、設計上の際に大きな影響がないような配慮をお願いしていきたいというふうに考えております。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 市民の方、そして保護者、父母の方からもさまざまな現時点で予想されるような不安、教育環境の不安については、もちろん教育長もお聞きしていると思いますし、今、教育長の話の中で、想定される不安については対応していきたいというふうな答弁だったわけですが、私は不安はなくなんねと思います。つまり教育環境をベストに保つことが教育委員会の、教育行政の仕事であって、不安が出たら対応するとか、例えば想定されることについては対応するというふうな姿勢が教育行政の姿勢であっていいのかなと。ベストな環境を子供たちに与えることが教育行政の仕事だと私は思うんです。いわゆる当局がさまざまな観光のため、まちづくりのためにすることと、教育さ及ぼす環境については不安があれば、きちんとそれは不安ですというふうに、市民さもですが、教育長の立場で、今から明言をしながら対応させていがんねというふうに私は思うんです。ベターで何とかするんでねえかというふうな姿勢が私は教育長の姿勢でいいのかなというふうに思うんですけども、その辺もう一回。

○安部 隆委員長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 重ねて申し上げます。

不安がないということについては、それは道路と隣接しているのは、どこの小学校であれ、

どこの中学校であれ隣接しておりますので、道路を通る車との接触とか横断の際の交通事故については、ここは長井小学校に限らず、どの学校においても心配ということは心配であります。そしてそれについてはそのための安全指導ということで、本当に学校の先生方、頑張っていたているのかなと思いますし、また、いろいろな全国的な事故を見るにつけ、通学路に関するいろんな心配は尽きません。そのために、じゃあ全く切り離れた環境というのがとれるかというのは、これからの社会の中でもなかなか難しい。子供自身に危険を、みずからの身を守る、その力を小さいころから身につけさせるということ、そのための安全教育、安全指導を一層徹底していくということ、これはもちろんセットにして考えていきたいというふうに考えております。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 当然環境が変わったことについて指導していくというふうなことは理解するわけですが、今ある環境から変わることが子供たちにとっていいか悪いかの判断するのが教育行政のまずは仕事でないのかなというふうに私は思うんですが、その辺は、例えば郡部の学校であったって、何か水の問題、雪の問題、あと新しく施設が出る場合、私、ちょっと名前忘れたんだけど、南中学校の前に、今はいろんな建物が建ったわけだけでも、農業委員会時代に土砂置き場というふうな計画が提示されたときに、さまざまな教育関係者なりで議論して、許可の条件整備について検討したことがあるわけですが、そういう教育面でもさまざまなきちんとした意見を聞く組織ありますから、ちょっと名前忘れて、大変失礼ですが、ぜひ多くの保護者なり関係者の意見を聞いて、教育長の立場で、むしろ提言をしていただきたいなというふうに思います。

ちょっと時間なくなりましたので、2番に移

らせていただきます。

長井市の市道の整備について通告しておりますので、建設課長にお伺いをします。

ながいのあらましを眺めておりましたらば、長井市の市道については、昨年、農道からの格上げが約31キロほどあったがゆえかもしれませんが、市道の舗装率については46.3%というふうにならわれておりました。長井市内の国道は当然100%、県道82.7%、今のは主要地方道です。県道が81%。それに対して市道が46.3%ということで、非常に低い値だなというふうに私は感じました。そんなに長井市の市道の整備って遅れてたんべかということが一つ。あと、これから降雪があって、除雪体制をするに、砂利道を除雪するということも非常に大変なべなというふうなことも含めて感じましたので、その辺の理由と実態はどうなっておられるのか、建設課長から説明をいただきたいと思います。

○安部 隆委員長 渡部政明建設課長。

○渡部政明建設課長 小関秀一委員のご質問にお答えいたします。

23年度実績のながいのあらましの舗装率の数値でございますが、下の括弧書きにありますように、舗装率には防じん舗装も含むとなっております。この46.3%というのは大変申しわけないんですけども誤りでありまして、防じん舗装を含む舗装率については68.4%でございますので、訂正方お願い申し上げます。

それで、先ほど、昨年の3月定例会で農道など67路線、約31キロ、市道認定したわけですが、それも加えましても68.4%で、認定前の前年、22年度実績では68.5%でありますので、舗装率についてはその辺の数値で推移しているということ。

あと、除雪についてご質問いただいたわけですが、現在、除雪している路線、舗装道路と舗装道路の間くらいの砂利道があるんですけども、ほとんど100%に近いところを舗装

しているところを除雪しているところがございます。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 先ごろ渋谷委員からも、今年度の最初の除雪が開始されて、安全に除雪作業が行われることを期待するわけですが、開始時間、あと委託業者に委託されておる道路延長については適正だがというふうなことについては、恐らく地区長さんなりさまざまな意見の中で除雪計画がされておるといふふうに思います。特に大雪になったときに、通勤時間なりに間に合わないとか、さまざまなことについてはそのときそのときの対応をしていくしかないというふうに思いますが、例えば白鷹あたりでは、各除雪機械にGPSをつけて、管理システムが昨年度から稼働しているというふうなこともお聞きしておりますが、つまり緊急を要する大雪のときに、どの機械をどういふふうに張りつけたり、市民が困っている情報について緊急に対応するというふうなことが今問われてるなべなというふうに思います。あんまり少ないときはともかくにしても、一番困るときに緊急に対応される対応というふうなことは、除雪協同組合だけ、にお任せをしておくというふうなことではなくて、そういうシステムも今はあるので、検討していがないんでねえがなと私は思っているところですが、建設課長から、そういう検討の経過などあったらお願いしたいんですが。

○安部 隆委員長 渡部政明建設課長。

○渡部政明建設課長 小関委員からは、白鷹町で昨年、試験的に導入しているGPSを利用した管理についてご質問ありました。長井市としても先月、11月ですが、県主催でGPSを使った除雪システムの研修会がありました。長井市でも担当者が参加してきたところがございます。その後、開発会社からデモンストレーションを受けまして、来年になるわけですが、1月に開発会社と、あと除雪業者のご協力を得まし

て、試験的に行う予定でございます。その結果を受けまして、今後の除雪計画に反映していきたいというふうに検討しているところです。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 研修会等、あとデモの利用等も計画あるようですので、ぜひ今後、スムーズで、的確で、あと緊急な降雪に対応できるような前向きな対応をお願いしたいなというふうに思います。

あと3番目、長井の観光について、これはさつきかわと道の駅と、観光振興計画の中にも関連するわけですが、長井の文化財の、特に指定されております無形文化財については、いわゆる念仏踊り等の獅子踊りについては指定をされておりますが、当然各地区の神社で行われている黒獅子の舞にかかわるお祭りについては全く一つもされておりません。当然黒獅子の観光を目玉にうたっている長井市でありますので、無形文化財にしたからどうのこうのということではないかもしれませんが、私は長井の観光の大きな財産は、各地区の神社で行われている祭りこそがその地域のにぎわいを見てもらう人にも感じてもらって、あのお祭りが、イベントとしては5月の黒獅子まつりなんだべげんども、実は文化や生業も含めて、各地区のお祭りこそが長井の売りにしていがないべなというふうに思います。フェイスブックなんかでようやく観光協会が各神社のお祭り日程とかも出し始めましたようです。私は、春から秋まで各地区で行われる祭りこそが一つは通年観光の目玉にしていくべきだなというふうに感じるわけですが、その点について、観光振興課長からお願いしたいと思います。

○安部 隆委員長 平 正行観光振興課長。

○平 正行観光振興課長 お答え申し上げます。

過去の平成23年度まで海藤氏を観光コーディネーターとしてお願いをしておりましたが、その第1番になる観光資源、長井のオリジナルが

やはり村祭りでされている黒獅子でございました。やはり遅ればせですが、今、PRしております。平成24年度におきましては、5月の初旬から9月の中旬まで、44社で、延べ、重なりますけれども、73日あります。これもやっぱりこれからの目玉として十分PRに努めていきたいと考えております。以上です。

○安部 隆委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 ぜひ現場のお祭りの雰囲気、ムード、そしてお神酒も酌み交わしながら、地元の地域の人と交流なり触れ合いをしてもらうことから、私は観光客がまたリピーターというか、してもらえる非常に大事な資源だなというふうに思いますので、ぜひその辺は最重要課題としてこれから活用いただきたいと思ひますし、二つ目の水の問題です。長井は水が非常に豊富で、水の観光、水を中心にしたまちづくり、観光をしていくというふうなことでありますけれども、所管については農業用水は農林なり建設なりまちづくりなりというふうなことで、さまざまあろうかと思ひます。ただ、残念ながら、長井では農業用のかんがい用水の権利はあるわけですが、生活用の権利はないんですね。これは大きな心配事だなというふうに思うんですが、その点、これからの長井の水のあり方について、権利等、市長、どういうふうに見解を持っておられるのか、最後にお聞きしたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。簡潔にお願いします。

○内谷重治市長 各、今、町内の中央地区の意見交換会などでも水をもっと流してほしいというふうなお話、要望あります。ただ、委員がご承知のとおり、野川土地改良区さんのほうから農業用水をまちなかに入れていただいている実情がありまして、水の水利権そのものは国土交通省、長井ダムのほうで全部管理しておりますので、そういった意味では、量をふやすというのはなかなか難しいというふうと考えております

ので、今後、野川土地改良区とやはり協議した上で、できるだけ地元の要望に応じていきたいと考えているところです。

○5番 小関秀一委員 どうもありがとうございました。以上で終わります。

○安部 隆委員長 ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午後 0時03分 休憩

午後 1時00分 再開

○安部 隆委員長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

なお、14番、大沼委員が着席いたしましたので報告いたします。

### 梅津善之委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位9番、議席番号2番、梅津善之委員。

○2番 梅津善之委員 予算総括も私で一番最後になりましたけれども、今までさまざま委員の方がお聞きになったこととかなり重複する点もございますので、確認を含めて答弁いただきたいものだなと思ひます。

では、都市再生整備事業の観光交流センター、かわと道の駅のことについての同じくにして建設が予定されている直売所、物産館及び農産加工施設や農家レストランの考え方なんですけれども、今までの話でありますと、直売所、物産館は今回の設計の内容に場所と建物も含めて建設の予定がなっていて、農産加工施設やレストランの考え方については、また別の予算を含み、さまざまな含みのある答弁がなされていると思